



夏山讚

宮坂静生



夏の葉に攻められてゐる齡よき  
枇杷撈ぎしゆさゆさと葉のけものめく  
木暮<sup>このくれ</sup>や葉守の神の午睡中  
森を抜け<sup>はだえ</sup>膚の内を蟻走る  
夏山の秘色尽して豪雨明け  
空身より歩荷の軽き身の熟<sup>こな</sup>し  
トンネルを抜け夏山の組み替はる  
夏山を下<sup>お</sup>り見るかぎり夏の山

いくたびも挑みし夏嶺<sup>とわ</sup>常に据ゑ  
瑞世<sup>ずいせい</sup>の僧夏山に親しうす  
瑞世―曹洞宗で住職になるために  
仕上げの行をすること



土用丑夜氣に沈香交りをり  
ビュニヤールしづ子さん  
ブルターニュからの絵葉書蜘蛛とぶ日  
夏掛のひやりと島嶼<sup>とうしよ</sup>包みたる  
胡瓜の棘茄子の蒂噫<sup>あゐ</sup>ウクライナ  
桃吹くとフランチェスコは小鳥呼び  
盆近し砦震ふか荒ぶるか